

三線の魅力に触れた7週間

令和6年度「初めてのさんしん教室」は20名が受講し、7週・7回の講座を開催しました。

講師に田村圭介さんをお招きし、まずは三線に触れ音を出し、身近な曲を三線で演奏する事を目標としました。初心者にわかりやすく丁寧な指導のもと最終日には、全員で「海の声」を歌いながら演奏することができました。

参加者からは「最初は工工四も読めるか不安だったが、一曲弾けるようになった。これからも続けていきたい。」「演奏以外にも三線と民謡の歴史について学べた。」といった感想が寄せられました。



久米島の文化が響く特別な一日

11月4日(月)に久米島町文化祭が具志川改善センターで開催され、約200人の町民が会場に訪れました。三線演奏や琉球舞踊、フラなどの演目に加え、今年は「字具志川棒術保存会」の協力により見応えのある2時間半となりました。

少子高齢化が進み、文化協会をはじめ各地域でも、伝統芸能の後継者不足が課題となっています。発表会を通して、伝統芸能の良さを感じてもらい、興味を持ってもらうことを期待します。

久米島と伊万里の絆 学びあう子どもたち

10月24日(木)、仲里小学校(5年生16名)と松浦小学校(4年生17名)の交流授業が行われました。

久米島町と佐賀県伊万里市、佐賀大学では、海洋深層水を活用した海洋温度差発電の繋がりを契機に、「海洋温度差発電の研究開発及び利活用並びに地域交流の推進に関する連携協定」を平成28年7月に締結し、同年度から交流授業が始まりました。

今年で8回目となる交流授業はWeb会議形式で行われ、海洋温度差発電に関する講和や両校の学校及び特産品、恒例行事、方言や祭、給食メニュー等の紹介と人口や野球クラブに関する質問・回答が行われました。

交流授業を終えた新垣奏和(あらかき かなと)さんの感想「海洋温度差発電の話を知り、すごいなと思ったことが2つあります。1つ目は、久米島で初めて汲み上げた海水を使った実証機を作ったことです。2つ目は、世界各国の人が視察・見学に来ていて、海洋温度差発電のシェアをしていることです。伊万里市との交流授業では、特産品が沢山あることを知りました。佐賀県の方言は、最初は分からなかったけど、だんだん分かるようになりました。」

